

第41823号

東奥日報 08.1.17

(第三種郵便物認可)



「まちなか」が持つ良さを高めていくことを確認した市民委員会の発足会

「まちなか」価値向上を

青森

市民委発足、幅広く検証

「まちなか」が持ついる生活価値を高めていこうと、青森市中心市街地活性化協議会と慶応大学が十六日、共同事業として「青森まちなかマーケティング市民委員会」を発足させた。市民の目線で多角的に同市中心街の「ハッピネス(なにか良いこと)」を発見し、活動成果は各種まちづくり施策に反映させるほか、

近未来型のコミュニティ一構築を目指す取り組みの第一歩とする。市民委員会は、中心街で暮らす人、働く人、商売をしている人、市民活動をしている人などで構成。同日、同市新町・さくら野内のレストランで開いた発足会と一回目の意見交換には、慶大側関係者を含め約二十五人が参加。工藤健さん(青森市まちづくりあきんど

隊)と小山内世喜子さん(県男女共同参画センターフ副館長)の二人を代表に選んだ。

今後二年程度かけて、

慶大などは、情報通信技術と小型電気自動車な

ど

組み合わせ、誰もが生き

る。

さまでまた切り口からハッピネスを洗い出してい

く「見える化」、ハッピネスの度合いを測り体系

的にととえでいくための

「指標化」、関係者がつ

ながりを深めながらハッ

ピネスを高めていく「共創の仕組みづくり」を進

めていく。

工藤さんは、「立場の異なる市民が委員になつたことで、まちを立体的に見ることができる。こ

れからのもちづくりの大

きなピントが得られるの

ではないか」と話してい

この記事は、東奥日報の許諾を得て掲載しております。
無断転用・複写を禁じます。